

日本のこれからの教育の方向性について

日本では、新しい学習指導要領が小学校で2020年、中学校で2021年に完全実施となります。内容を見ると、小学校5・6年生に英語が教科として位置づけられます。中学校では、英語による授業が原則となり、より一層のコミュニケーション力が求められます。さらに、道徳が教科として位置づけられ、今まで以上に重視されます。また、大学入試の変更が行われる予定です。これまでの大学入試センター試験が廃止されます。それに代わるテストの導入が文科省で検討されています。現在の中学3年生の子供たちから、この新システムに対応することになります。獲得した知識や技能を基盤にして、正解のない問題に自ら答えを見出していき、思考力・判断力・表現力等が求められていくようになると思います。



そのために、日本国内で「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた指導方法の工夫改善が行われつつあります。具体的には、一人ひとりが自分は何を目的にして学びたいのかを考え、その目的のためにもっとよい方法は何かを考え、それを実践し続けることです。

○「主体的・対話的で深い学び」について

- ① 「主体的学び」とは、今自分の学習はどういう状況にあって、今後どうしていけばいいのかを自分で判断しながら、学ぶこと。そのためには、今の学習状況を振り返り、ここは理解できているが、ここが理解できないということ把握すること、そして先を見通して理解できていないところは今後どう学習すればいいのかを自分で判断すること。(振り返りと見通し)
- ② 「対話的な学び」とは、対話することによって考えが広がり深まること。対話で相手に自分の考えを伝えるために自分の考えを整理することで、考えを深めて行くこと。(他者との行き交い)
- ③ 「深い学び」とは、習得・活用・探求という学習プロセスの中で、教科書の特質に応じた見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解していくこと。(学習意欲・学習態度)

㊦生き方について

7月15日(土)の7校時に、中学生に本校の卒業生(もみじから在籍)でもあり、本校の教師でもある松方理紗先生に、「レインボー学園を続けて」という題で、「ご自身の経歴、レインボー学園に入って良かったこと、現在の思い、これからの目標」を語っていただきました。

㊦七夕集会について

7月15日(土)の1校時に、幼稚部全員で七夕集会を行いました。「七夕の由来のはなし、紙芝居、笹の紹介、たなばたの歌」を行い、子どもたちが興味深く参加していました。

㊦運動会プログラムの表紙絵を募集します。締め切りは、8月12日(土)です。

㊦退職と新担任について

7月22日をもって、松方理紗先生(小学部3年1組担任)が退職されます。子どもたちと仲良く学習活動を行って頂きました。7月29日(土)より、チェン泉先生(新小学部3年1組担任)を後任とさせていただきます。チェン泉先生は、日本での教職経験があり、教育に対する強い熱意もおもちの先生です。保護者の皆様のご支援、ご協力をお願いします。